

大型クラゲの遊泳行動特性

漁業生産工学部

研究の背景・目的

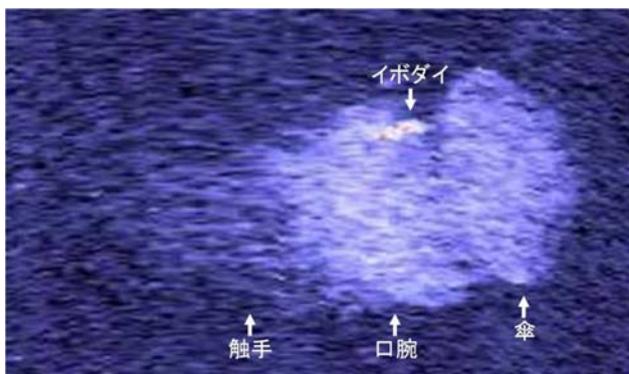
1. 大型クラゲ(エチゼンクラゲ)による漁業被害を防ぐためには、鉛直分布や遊泳深度等の把握が不可欠であるが、調査手法や既存知見はなかった。

研究成果

1. 水中ビデオカメラを装着した表中層トロール網による分布調査法を開発した。
2. 水中音響カメラによる大型クラゲの分布調査法を実用化した。
3. 上記手法ならびに電子標識を用いた調査により、平均遊泳深度は昼頃から夕方にかけて浅く、深夜から未明にかけて深くなることを明らかにした。

波及効果

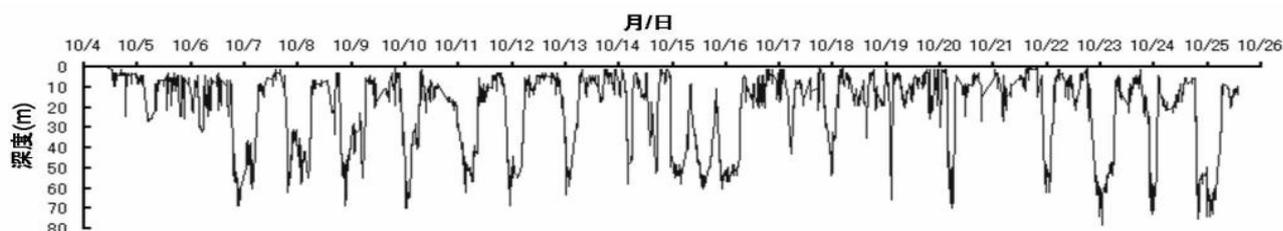
1. 遊泳深度の把握により、海流の速度から詳細な来遊予測ができる。
2. 効果的な洋上駆除や、被害を防除するための漁具や方法の開発に役立つ。



音響カメラに映った大型クラゲ



網内を通過する大型クラゲ



大型クラゲ遊泳深度の時系列値

(漁法研究室・本多直人)